

Building lifestyle around Ferrari

フェラーリ・チャレンジの日本シリーズが"復活"

本来であればちゃんとページを割いてお届けしたい話題だが、発表会開催が締め切り数日前であったため、いつも最後を書くことでとりあえず"速報"することにした。

フェラーリ・チャレンジ・ジャパンシリーズが2023年から開催されることになった。2022年まで約10年開催されてきたアジア・パシフィック・シリーズが休止となり、それに代わり日本で全5戦が展開されるものだ。現在チャレンジは北米、ヨーロッパ、イギリスで行われており、それに日本が加わるのは大きなニュースと言えるだろう。

1993年にイタリアで始まったヨーロッパでのチャレンジは、1994年に北米、1995年に日本と続き、2012年に日本からアジア・パシフィックへ発展。2019年にはイギリスが追加されている。つまりは日本でのシリーズは久しぶりの"復活"だ。

日程は別表を参照頂くとして、全て週末の土日を使用する1日1レースの2レース方式。カテゴリーは3つを予定し、基本的にはジェントルマンドライバーが購入した488チャレンジ(価格4136万円)でエントリーが前提だが、オーナー=ドライバーでは必ずしもある必要がなく、もちろんプロはNGだが、要件を満たしたドライバーなら参加可能。エントリーフィーは様々なレースサポートやホスピタリティがパッケージとなり年間1360万円、1レーススポット370万円となる。イタリアからAFコルセのチーフエンジニアとメカニックが毎戦ごとに来日し、セッティングをイコールコンディションにコントロールしつつ、ドライバーごとに4名が付く正規ディーラーのメカニック(テクニシャン)をサポートするのもポイントだ。ちなみに2レースを1イベントと数え、2イベント参戦すると、イタリアのフィナーリモンディアーリ参加資格も得られる。

12月13日に富士スピードウェイ・ホテルで開催された発表会の後、来日したコルソ・クリエンティのアジア・パシフィック責任者であるフィリッポ・ザニエールさんにお話を伺うことができた。2019年にフェラーリ入りしたフィリッポさんだが、やはりパンデミックの影響で「制限された中でレースを楽しんで頂くことができなかった」とアジア・パシフィック戦の閉鎖を残念そうに語る。しかしクラブ・チャレンジと呼ばれるチャレンジカーを使用した走行会イベントが各国で盛況を見せるな



どコミュニケーションは高まっていて、2021年からクラブ・チャレンジを展開してきた日本も例外ではないそう。

「日本のジェントルマンドライバーたちからは、スポーツマンシップが磨かれた"クラブフィーリング"を感じます。他国では自分の表彰が終わると帰る方も多い中、日本の方は待っていらっしゃるからね。尊重し合っているように感じました」

フィリッポさんは日本の特徴をこのように例えていて、こうした成熟した環境なら成功する確信もあつたに違いない。ちなみにアジア・パシフィックの販売は伸びていて、特に日本が際立っているともコメント。今号の本誌もプロサングエのいち早い日本上陸をトップ記事とさせて頂いたが、この早さもまた、フェラーリが日本市場を重要視している証と言えるだろう。

■フェラーリ・チャレンジ・ジャパンシリーズ 2023年レースカレンダー

4月	8~9日	富士スピードウェイ
5月	6~7日	オートボリス
7月	1~2日	富士スピードウェイ(フェラーリ・レーシングデイズ開催)
7月	15~16日	鈴鹿サーキット
8月	19~20日	スポーツランドSUGO

*エントリーをご希望の方はお近くのオフィシャル フェラーリ ディーラーにご相談を



文 平井大介
text by Daisuke Hirai
写真&取材協力 フェラーリ・ジャパン